

～施設・道路・史跡・神社の解説～



岡山市立北公民館

昭和57年に建設された古い公民館ですが、いろいろな講座はいつもいっぱい、岡山市でも利用度の高い公民館です。北公民館は地域の生涯教育の場としてだけでなく、地域の各種団体の活動拠点となっています。



半田山植物園

岡山市街地を一望できる日当りのよい半田山の丘陵地を、植物観賞はもとより、レクリエーション、いこいの場として、ひろく市民のみなさんに利用していただくこと、昭和39年5月に開園しました。



法界院

半田山南麓にある真言宗の寺院。正式名称は「真言宗金剛山遍照寺法界院」といい、聖観音立像を本尊とします。天平勝宝年間(8世紀中ごろ)、報恩大師の創建と伝えられています。たびたび火災にあい、文久年間(1861～1864年)には、仁王門と中門を残して消失したため、本堂をはじめ、ほとんどの建物はそれ以降のものです。



陸上自衛隊

三軒屋駐屯地

自衛隊弾薬庫を中心とした機能を持っています。地域と良好な関係を維持しつつ、防衛任務に邁進しています。



三野公園

戦国時代、明見山城があった高さ60mの明見山に、地元で生まれた小合金光氏が岡山市議会議員であった昭和10年頃、眺望の良い東側の広さ21,770平方mに三野公園を設置。頂上からは遥か四国までも展望され、特に春の桜は美しく、岡山県下十勝地に指定された。頂上には小合金光氏の顕彰の碑があります。



浄水場

浄水能力一日7,800m³として築造された岡山市創設水道の浄水場。場内にある旧ポンプ室は、瓦葺寄棟の洋風建築で、レンガの壁、大理石の飾りのついたアーチ窓を持つ優美なつくりである。昭和60年からは、記念館として利用されています。



御崎神社(式外社)

〔祭神〕 大国主神 猿田彦神 須左之男神
〔由緒〕 「吉備温故」によると出雲国日御崎神社から勧請したとあります。もともと川向うの竹田地区にあったのですが、天正年間、岡山城下に引水する工事で、社地が河川敷になるため、宇喜田秀家が北方村に遷宮したといわれています。



天計神社(式内社)

〔祭神〕 手置帆負命 彦狭知命
〔由緒〕 池田家神社 明細帳に「上代の宮跡は、北方村の西北の幸田畑という所に鎮座ありしを、小早川秀秋が今の地に移す」とあり、慶長6～7年(1601～1602年、関ヶ原合戦の直後)のころ、当時備前岡山藩主だった小早川秀秋が幸田畑から移したものと考えられます。この神社は、推定4世紀半ごろ築造の、竪穴式前方後円墳・神宮寺山古墳後円部に参道の石段を、墳頂部に社殿をそれぞれ造営しています。



聖観音立像(国指定重要文化財)

●道讚禪定門石灯籠(市指定重要文化財)

この灯籠は、豊島石製で、慶長3年(1598年)の造立です。全高222cm、竿には、造立の趣旨・紀年が刻んであります。姿は古相を示し、この時期の貴重な在銘物です。



岡山大学

●津島遺跡(岡山大学工学部構内)

1987年、岡山大学構内(津島遺跡の北東1.5km)より、弥生前期の水田跡が出土しています。



八幡宮(式外社)

●遠藤橋・幸田ノ樋

座主川にかかっている小石橋で、宇喜田直家の家臣、遠藤河内守喜三郎が造ったところから遠藤橋と呼ばれ、この遠藤がなまって江堂(えどう)橋となったようです。津島保育園近くを通っている座主川には、水車で粉挽きをしていた幸田ノ樋があります。



岡山県青年館

●朝寝鼻(あさいばな)貝塚

半田山上の岡山理科大学の南麓、岡山大学の東北隅付近にこの貝塚があったようで、縄文後期の前半・後半に属するそれぞれの出土品が保存されていますが、現在、貝塚はありません。

●江堂遺跡(岡北中学校校地内遺跡)

1986年、校地内で住居跡が出土し、その近くから12区画の水田跡を発見、縄文晩期型土器が同時に出土しました。この層のわずか10cmから弥生前期前半の水田跡も出土しています。



子供の森公園

この立像は、聖徳太子の作と伝えられ、^{ひのき} 桧材一本造りで、素朴な作風を示す平安時代後期(11世紀ごろ)の秀作です。像高103.7cmで、当初は彩色像だったといわれています。

旧陸軍第17師団司令部、17連隊の跡地です。大学のキャンパスとしてはわが国有数の広さを誇っています。師団指令部の建物も保存され、往時を偲ばせています。

〔祭神〕 応神天皇 仲哀天皇 神功皇后
〔由緒〕 元来、弓矢の神。出陣・戦勝・生還等の祈願のために、全国各地に造営された神社。

岡山県下の青年団の募金で建設した宿泊施設です。岡北中学校、岡山大学、岡山理科大学、北公民館に隣接しているため、施設内のレストランは地域のサロンのようです。

元農林試験場の跡地が植物公園として整備されたものです。四季折々に美しい花々が楽しめ、休日は家族連れでにぎわっています。

御野地区



●神宮寺山古墳(国指定史跡)



この古墳は、旭川西岸地域では最大の規模を誇り、4世紀後半(約1600年前)築造と推定されています。全長約150m、後円部径約70m、墳高約13mの竪穴式前方後円墳(前方部は一部欠損)。1961年、竪穴式石室に接続する小石室が盗掘され、多くの副葬品を失いました。同時代の旭川東岸地域には、この古墳より大きい古墳もありますが、いずれも山腹や丘陵に造成されたもので、この古墳が平地に作られたことを考え合わせると、この地域に蓄積された経済力がいかに大きかったかを知ることができます。

「ええとこ発見図」は、自分たちの住んでいる「地域の良さ」を再発見しようという視点で作成したものです。作成過程で、地域を何度も歩くことにより普段見過ごしていた大切な資源を再確認しあい、話し合いを重ねてつくりあげました。いろいろな人と知り合い、お互いを認めあうことで、この地域に住む人の「ええとこ」も再発見しました。そして、今まで以上に愛着が深まりました。この「ええとこ発見図」を利用して、ますます地域の絆が深まっていくことを願っています。

—作成者一同—